


# 製品安全データシート

作成日：2016年12月07日

改訂日：2025年03月17日

確認日：2025年03月17日

1. 化学品及び会社情報	
製品名 [構成品名] 他の特定手段 供給者の会社名称、住所及び電話番号  緊急連絡電話番号 推奨用途 使用上の制限	フルオロセル M  シスメックス株式会社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 シスメックス株式会社 テクノパーク 〒651 2271 神戸市西区高塚台4丁目4番地の4 TEL：(078) 991-1911 TEL：(078) 991-1911 臨床検査測定用 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質 専門家等の判断を仰ぐこと。
2. 危険有害性の要約	
化学品の GHS 分類 物理化学的危険性 健康に対する有害性 環境に対する有害性 GHS ラベル要素 絵表示  注意喚起語 危険有害性情報 注意書き 安全対策 応急措置  保管 廃棄  GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の有害危険性	区分に該当しない 急性毒性（経口） 区分 4 区分に該当しない    警告 H302 飲み込むと有害  該当しない P301+ P312 飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。  該当しない P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。  情報なし
3. 組成及び成分情報	

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名 濃度（範囲）	

各成分の化学名	CAS 番号	化審法官報公示 整理番号	安衛法官報公示 整理番号	濃度または濃度 範囲
エチレングリコー ル	107-21-1	(2)-230	既存	<100%
没食子酸プロピル	121-79-9	(3)-1583	既存	<0.5%

本製品は、化管法、毒劇法に該当する物質を閾値以上含んでいません。

#### 4. 応急措置

必要な応急処置の説明	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。」
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	特に必要ない

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡、粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	情報なし
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 避難して安全な距離から消火すること。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離
----------------------	---------------------------

環境に対する注意事項	<p>する。関係者以外は近づけない。</p> <p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。</p> <p>作業者は適切な保護具(8.暴露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。</p> <p>風上に留まる。低地から離れる。</p> <p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。</p> <p>環境中に放出してはならない。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>危険でなければ漏れを止める。</p> <p>除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。</p>
二次災害の防止策	<p>すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。</p> <p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
安全取扱注意事項	<p>火気注意。</p> <p>次項に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>次項に記載の局所排気、全体換気を行う。</p>
衛生対策	<p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p>
保管	
安全な保管条件	<p>2~35℃で直射日光・粉塵等を避けて保管する(凍結禁止)。火気厳禁。強酸化剤、強酸、強塩基から離して保管する。</p>
安全な容器包装材料	<p>密封可能な容器</p>

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	
日本産業衛生学会 ACGIH	<p>情報なし</p> <p>TWA-STEL C 100mg/m<sup>3(H)</sup> A4</p> <p>(H) Aerosol only (エチレングリコールとして)</p>
設備対策	<p>本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p> <p>高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。</p>
保護具	
呼吸用保護具	<p>換気が不十分な場合には適切な呼吸器保護具を着用すること。</p>

手・皮膚の保護具	適切な手袋を着用すること。適切な保護衣を着用すること。
眼、顔面の保護具	眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
特別な注意事項	情報なし

## 9.物理的及び化学的性質

物理状態	粘潤な液体
色	黄色
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初溜点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	111℃（エチレングリコールとして）
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に 100%可溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.11 g/cm <sup>3</sup> (20/20℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(放射性、かさ密度、燃焼持続性)	データなし

## 10.安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤、強塩基と反応する
避けるべき条件	加熱、火花、裸火などの着火源
混触危険物質	強酸化剤、強塩基
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、その他刺激性/有害性のある煙霧や気体

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラット/経口 LD <sub>50</sub> 4000-10200mg/kg(エチレングリコールとして) 500-10
経皮	区分に該当しない
吸入	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激（ウサギで、555mg/open,mild）且つ濃度 10%を

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	<p>超えている。(エチレングリコールとして)</p> <p>眼(ウサギ、1440mg/6h、Moderate)(エチレングリコールとして)</p>
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない
発がん性	データ不足のため分類できない
生殖毒性	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>(エチレングリコールとして)ヒトについて、「誤飲後34日以降に意識障害、痙攣、昏迷状態がみられ、血液化学的検査では尿素窒素、クレアチニン及び尿酸が増加、尿検査で蛋白尿及び血尿がみられ、腎障害が認められている。腎生検で尿細管に組織学的変化がみられている。また、肺の軽度なうっ血がみられた」「急性影響は4段階に分けられる。まずばく露後30分から12時間後に起こる中枢神経系への作用、次にばく露12-36時間後に起こる心肺系への影響、さらに第1及び第2段階で死亡(エチレングリコール)を免れた者にみられる腎臓障害、そして中枢神経系の変性である。」との記載がある。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>(エチレングリコールとして)ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」</p> <p>「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性的変化」との記載がある。</p>
誤えん有害性	データ不足のため分類できない
その他の情報	情報なし
<b>12. 環境影響情報</b>	
生態毒性	ニジマス 96h LC <sub>50</sub> =47mg/L (エチレングリコールとして)
水生環境有害性、短期(急性)	情報なし
水生環境有害性、長期(慢性)	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし
その他の有害性	情報なし
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
<p>化学品(残余廃棄物)当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報</p> <p>残余廃棄物</p>	<p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p>

付着している汚染容器及び包装	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
<b>14. 輸送上の注意</b>	
<p>国際規制</p> <p>航空規制情報 (ICAO/IATA)</p> <p>    国連番号</p> <p>    品名 (国連輸送名)</p> <p>    国連分類 (危険有害性クラス)</p> <p>    容器等級</p> <p>海上規制情報 (IMO)</p> <p>    国連番号</p> <p>    品名 (国連輸送名)</p> <p>    国連分類 (危険有害性クラス)</p> <p>    容器等級</p> <p>海洋汚染物質</p> <p>MARPOL73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質</p> <p>国内規制</p> <p>航空規制情報</p> <p>海上規制情報</p> <p>陸上規制情報</p> <p>輸送又は輸送手段に関する特別の安全策</p>	<p>輸送危険物には該当しない</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>輸送危険物には該当しない</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>非該当</p> <p>輸送危険物には該当しない</p> <p>輸送危険物には該当しない</p> <p>消防法の規定に従う</p> <p>輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。重量物を上積みしない。</p>
<b>15. 適用法令</b>	
薬機法	非該当

安衛法	該当：エチレングリコール（安衛法施行令 別表第九 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物、則第 594 条の 2 皮膚等障害化学物質等） 没食子酸プロピル（安衛法施行令 別表第九 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 令和 7 年 4 月 1 日施行）
化管法	非該当
毒劇法	非該当
化審法	該当：エチレングリコール（優先評価化学物質）
水質汚濁防止法	非該当
航空法	非該当
船舶安全法(危険物船舶運送及び貯蔵規則)	非該当
消防法	エチレングリコール（第 4 類引火性液体、第三石油類水溶性液体）
スイス連邦法 揮発性有機化合物の特別税法	非該当

## 16. その他の情報

その他の情報	本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。 ここに記載された情報は、シスメックス株式会社の最善の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。
略語	ACGIH：アメリカ合衆国産業衛生専門官会議(American Conference of Governmental Industrial Hygienists) TWA：許容濃度(Time-Weighted Average) ICAO：国際民間航空機関(International Civil Aviation Organization) IATA：国際航空運送協会(International Air Transport Association) IMO：国際海事機関(International Maritime Organization) IBC コード：国際バルクケミカルコード(International Code for the Construction and Equipment of Ships Carrying Dangerous Chemicals in Bulk) 薬機法：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 安衛法：労働安全衛生法 化管法：化学物質排出把握管理促進法 毒劇法：毒物及び劇物取締法 化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 NITE：独立行政法人製品評価技術基盤機構(National Institute of Technology and Evaluation) NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, AnnexVI
データの主要な文献参照と出典	